



ウトナイ湖通信

No.170

ウトナイ湖野生鳥獣保護センター 発行

トピックス

キビタキの出現に湧いた「ウトナイ湖・夏鳥ウォッチング」

心配された天候も回復し、晴天となった6月3日(日)。まずは室内で「夏鳥」や「さえぎり」などについてのミニレクチャーをした後、観察できそうな野鳥を紹介し、参加された19名の皆さんとさっそく野外へ出かけました。

深緑が映える中、自然観察路で時々立ち止まりながら、センダイムシクイやカッコウなどのさえぎりに耳を傾けます。



新緑の林で、さえぎるキビタキをウォッチング

期待していたキビタキが出現すると、皆さん大喜び。喉から腹にかけて美しい黄色をした姿を見ることで、これが最も印象に残るシーンとなったようです。

センターに戻り、ウォッチングした野鳥を全員でおさらい。結果、観察できたのは、アオサギやオジロワシ、ウグイスなども含め12種となりました。



夏鳥は東南アジアなどから渡って来ることを紹介



快適化プロジェクトが進行中

当センターを訪れた皆さんに、もっとゆっくり、のんびり過ごしていただこうと、このたび東側にある「森の休憩室」周辺をリニューアルしました。

丸机とデッキチェアを配置し、ちょっとしたおしゃべりも楽しめます。また、別の机には気軽に読める本を用意。外は雨で自然観察路を散策できない時など、如何でしょうか。

さらに、9月までの夏季限定となりますが、現在、館内から直接、すぐ横のウッドデッキに出られるよう、ドアを開放しています。このデッキも今春、新しくしたもので、こちらは晴天時のランチなどでのご利用がオススメ。自然観察路へもすぐにアクセス可能です。これらの快適化プロジェクトは、今後も少しずつ進めていく予定です。



ウッドデッキにある円形状の木製ベンチ。自由にご利用ください



リニューアルした「森の休憩室」。ウッドデッキへは左奥のドアから出られます



センダイムシクイ

【自然観察路情報】

2018年6月6日(水) 10:00~12:00

観察された生きもの

《野鳥》

コブハクチョウ、キジバト、アオサギ、カッコウ、トビ、オジロワシ、ハシボソガラス
ハシブトガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、ヤブサメ、センダイムシクイ
エゾセンニュウ、コヨシキリ、クロツグミ、コサメビタキ、キビタキ、ビンズイ、アオジ

《植物》

ミツバツチグリ、ベニバナイチヤクソウ、ササバギンラン、オオヤマフスマ、マムシグサ
ミズキ、ニシキギ、カラコギカエデ、カンボク、チョウセンゴミシ(以上、花)、ホオノキ(つぼみ)
ヤマグワ、エゾニワトコ、イヌコリヤナギ、セイヨウタンポポ、(以上、実やタネ)

《その他》

エゾハルゼミ(声)、ミヤマカラスアゲハ、キアゲハ、モンキチョウ、コサナエ、ヨツボシトンボ
シオヤトンボ、アワフキムシ、キマワリ、ナナホシテントウ、ハッカハムシ、オビカレハ(幼虫)



クロツグミ

キビタキ



エゾセンニュウ



ベニバナイチヤクソウ

【水鳥カウント調査結果】

2018年6月14日(木) 15:00~16:00

観察された水鳥、ワシ・タカ類 * ()内は個体数

コブハクチョウ(5)、ヨシガモ(5)、マガモ(2)、アオサギ(6)、トビ(7)
オジロワシ(6)、チュウヒ(1)、種不明カモ類(5)



マガモ



7月の自然予報

マガモやカルガモを除くカモ類の多くは、ロシアなどで繁殖中のため、湖にほとんど姿がありません。ハクチョウ類はケガをして越夏するオオハクチョウが数羽、また、飼育個体が逃げ出しすみついたコブハクチョウ数羽が見られるでしょう。

5月下旬と遅く渡来したエゾセンニュウを除き、クロツグミやキビタキ、センダイムシクイなどの夏鳥は子育てに忙しい時期を迎え、美しいさえずりは次第に聞かなくなるでしょう。

6月が天候不順だったせいか、草花の生育もやや遅れ気味の様です。これから先、湖岸の観察路では、赤紫色のエゾレンリソウ、青紫色のカキツバタ、黄色のトモエソウ、ピンクのホザキシモツケなど、色とりどりの草花が見られるようになるでしょう。



夏も見られるコブハクチョウ。別の場所で飼育下にあった個体が定着したものと見られる。



淡いピンクのホザキシモツケ。上旬~中旬に見頃となる



ミズイロオナガシジミ。幼虫はコナラなどの葉を食べる



湖岸ではフタスジチョウやコヒョウモンなど、林内ではクロヒカゲやジャノメチョウなど、チョウの仲間がよく見られるでしょう。美しいミドリシジミやミズイロオナガシジミはどちらも7月に現れます。



シオヤトンボ、セスジイトトンボなどなど、トンボの仲間もよく見られるでしょう。

【キマワリ】

夏は虫が活発に動く季節。林の中を散策した際、コナラなどの幹に黒光りする丸っこい昆虫を発見したら、それはきっとキマワリに違いありません。その名のとおり、長い脚でひょこひょこ木を回るように歩きます。鎧のように硬い外翅はコウチュウ(甲虫)の仲間の特徴です。



ウトナイ湖に関するクイズ。
毎回、その月にあわせたテーマで出題しています。
あなたもウトナイ博士になれる?かも。

Q. 野鳥の子育てが終盤を迎える頃。中には、自分で子育てをせず、他種の巢に卵を産み、育ててもらおうという、変わった習性(「託卵」といいます)を持つ野鳥もいます。さて、ウトナイ湖周辺に生息する次にあげた野鳥のうち、託卵する習性があるのはどれでしょう。

- (あ) カッコウ
- (い) カワセミ
- (う) カササギ



答えは最後のページにあるよ。

傷病鳥獣ルームから



当センターでは、国指定ウトナイ湖鳥獣保護区とその周辺(苫小牧市行政区域内)において人為的な原因で保護された傷病鳥獣の救護・リハビリを行っています。その活動の一端をみなさまに知っていただくコーナーとして、ここでご紹介いたします。

エソモモンガ

2018年 6月 8日 くもり

苫小牧市内の倉庫で衰弱した状態で発見される



6月8日 13:30頃、センターへ搬入される。前日に同じ場所で成獣が死亡していたとのこと。初診では外傷は認められなかったが、衰弱が著しかった。

ただちに保温し、人肌に温めた猫用ミルクを与えた。

6月11日 体重は41gまで増えたものの、まだ衰弱傾向にあり、自ら姿勢を保てない状態。

6月12日 夕方に容体が急変し、22:00頃、死亡した。



エソモモンガ (げっ歯目 リス科)

北海道にのみ分布するタイリクモモンガの亜種です。(本州~九州に分布するニホンモモンガは日本固有の違う種です。)森林や林、市街地周辺の緑地等に生息しています。日中は樹洞や巣箱で休息し、夜間に滑空して樹上でいろいろな植物を食べます。1年に2回(2月下旬~3月上旬と6月中旬~7月上旬)繁殖します。

イベント情報

夏のウトナイ湖・ウォークラリー

日時：7月28日(土)・29日(日)・8月4日(土)・5日(日)・11日(土・祝)・12日(日)・18日(土)・19日(日)
10:00～17:00

対象：どなたでも

定員：なし

申込み：不要。当日、10:00～16:00に随時受付

内容：約500mの自然観察路を歩いて一周しながら、途中のポイントに設置された夏の自然に関するクイズに挑戦いただきます。ゴールでは答え合わせをし、参加賞をお渡しします。
(解答用紙を持って、それぞれ自由に問題を解いていくイベントです)



夏休み子どもスペシャル☆ ～ウトナイ湖野生鳥獣保護センターのお仕事体験～

日時：7月29日(日)10:00～12:30

対象：小学校3～6年生

定員：申込み先着15名 (7/1～7/28受付)

内容：ウトナイ湖野生鳥獣保護センターの仕事について紹介、ウッドデッキのペンキ塗りやセンター周辺のゴミ拾いを行います。その後、センターの傷病鳥獣保護施設を見学し、センター職員や環境省のレンジャーと一緒に、自然環境の保護について学びます。



市民ギャラリー

「ウトナイ湖の野鳥との出会い」写真展

日時：7月1日(日)～7月29日(日)

展示：横井 保さん



◆ウトナイ湖◆

周囲約9km、面積約275ha、平均水深約0.6mの淡水湖です。

鳥類はこれまでに約270種が確認され、ガン・カモ・ハクチョウなどの渡り鳥にとって重要な中継地、越冬地となっています。このためウトナイ湖は、国指定鳥獣保護区特別保護地区、ラムサール条約湿地、東アジア・オーストラリア地域渡り性水鳥重要生息地ネットワークに指定、登録されています。

◆ウトナイ湖野生鳥獣保護センター◆

環境省が「野生鳥獣との共生環境整備事業」により建設し、苫小牧市と共同管理する施設です。また、苫小牧市が業務の一部を(公財)日本野鳥の会に委託しています。

【利用案内】

〒059-1365 苫小牧市植苗156-26 TEL. 0144-58-2231 / FAX. 0144-51-8600

入館無料 / 開館時間：午前9時～午後5時 / 休館日：毎週月曜日(祝日の場合は翌日)及び年末年始

